

やつおもて

第8号 (2015年7月)
編集発行：和田公民館
協力：公民館運営推進委員
電話：(45-1918)
eメール:wada-k@ph-hamada.jp

～和田地区いろいろ見て歩く記～



ささのはさ～らさら～



お～ほしき～ま



のきばにゆれる～



き～らきら～



皆さんこんにちは。いかがお過ごしでしょうか。暑くなって田んぼは一段と緑が美しくなってきました。風にそよぐ一面の稲の清々しいこと！この景色を見るのを毎年楽しみにしています。皆さんの好きな景色はどんなところでしょうか？（つぬ）

今回は重富遺跡について紹介します。

《重富遺跡》

重富遺跡はやつおもて古墳群の下の南向きの斜面に広がっています。弥生時代終わりから古墳時代前期の木棺墓群や鎌倉～室町時代ごろと考えられる火葬墓群、奈良～平安時代ころの竪穴住居跡群などが確認されています。

また、ほぼ同じ頃に作られたと考えられる瓦の窯跡も発見されています。

《竪穴（たてあな）住居跡》

南向きの斜面に四角い穴を掘り、削った土を斜面の下の方に盛って正方形の床面を作り出しています。1棟の大きさは1辺4m～3.5m程度です。

山手側の壁の下には、排水用と考えられる溝がめぐり、壁の一部には据付の「かまど」と煙だし用の穴があります。「かまど」の付近では、煮炊き用の土師器（はじき）と呼ばれる赤焼きの土器が残っており、須恵器なども出土しています。

西日本では、概ね6世紀頃から掘立柱建物が住居として利用される様になります。石見地方の奈良時代頃の住居については、あまり知られていませんでした。この遺跡や匹見町の長グロ遺跡や広島県の杉ヶ迫遺跡で竪穴住居跡が発見され、西中国山地では古墳時代に引き続き竪穴住居で生活していたことがわかりました。

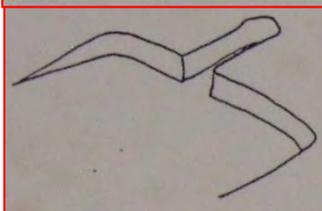
【ふるさと歴史公園資料より】

つぬです！



【竪穴住居の建て方】

① 斜面を四角く掘る
煙出しの溝をつける。



② 柱をたてる。

溝と「かまど」をつくる



③ 屋根を葺く。



「やめんさい」その一言が 第一歩

続いては和田地区に伝わる伝説のコーナーです

姫御前（ひめごぜ）—「防六をあおぎて」より—



1480年頃後亀山天皇のひ孫である若き宮が重富の里に逃げて来た。

何故…？ その頃日本は南朝、北朝に別れ天皇同士が争っていた。南朝側である宮側は負けてちりぢりに終われる身となり、宮も都を捨て折れそうな心にむち打ってこの地まで逃げて来たのだ。この地が南朝側であろうと捕まればどんな「とが」を受けるか分からない。常に命を狙われる訳で尋常な逃避行ではない。そして今、重富川の川下の宿の主となった。

世が世であれば…と思えど、どうにもならない世を嘆きつつも長逗留は危ない。そんな中でも、そこで何日か過ごすうち、接待のためその家の娘が時折姿を見せ、黒米の飯と汁を持って迎えた。夕餉のかまどの煙がゆっくり、ゆっくりと山の峰に上っていく…そのさまを二人で眺めながらどれほどの時を、幾日を過ごしただろう。

この穏やかな日々が永遠に続けば良いが…と思いつつも時代はそれを許さなかった。宮は心を残して、又、逃避行の旅へ去ってゆく。遠くなっていく宮の一行を目で追いながら、「どこまで逃げるのか…、いつまで逃げるのか…」と娘へは泣いた。その家が重富川と本郷川の交わる左岸に今も残る牧原家です。



身分の高貴な人と情を結んだ女子は（下賜）^{かし}と言って「姫」という位を授かる。それゆえ、その家の屋号を「姫御前」^{ひめごぜ}というようになった。今も川の瀬音変えずして、つかの間の悲恋を知らぬが如く川はとうとうと流れを止めない…



私はまだ、重富さんのところへお嫁に来ていない時代のことだけど、悲しいお話ね…

（文・絵 佐々岡健次）



館長の今月の故事・ことわざ

イタチなき間のテン誇り

大敵であるイタチのいない間だけ、テンが偉そうに威張るという意味。

自分より優れた者、強い者のいない所で、わが物顔に威張る事のとえ。

今回は明治5年2月に起きた浜田沖地震と八戸川について話して見ましょう。



かまつか（コイ科）

驚いたり外敵が現れたりすると底砂に潜り身を隠す習性があることからスナホリ・スナモグリなどとも呼ばれている。

明治5年2月に浜田沖を中心とした震度7.1という巨大地震が発生し、浜田を中心に倒壊した家屋約千三百、死者490人と記されている。

この話は今までにたびたび聞いているが、八戸川に当時の地震の大きさを物語る物証がある。岩畳と戸川の境が「葛箆（つづら）ヶ谷」でその谷の出合に「さかな淵」があり、その下流約百メートルの地点に川の中央部に大きな岩が二つ並んでいる。この岩を「高岩」と呼び、この岩があるために淵

ができたこの淵を「高岩淵」と呼んでいる。この岩こそ浜田沖地震によって山から転げ落ちた岩石だと伝えられている。今は不動の物となり八戸川の名物にもなっている。

浜田沖地震の話がもう一ヶ所ある。それは中戸川の下流にある「長のろ淵」である。その淵に大きな岩石がたくさん転がっているが、これも地震の際に山から落ちた岩石といわれている。

余震が何日も続き、夜間対岸から見ると、落ちる岩石と岩との摩擦によっておきる火花は松明を叩きつけたように見えたといわれている。

現在では想像しがたい点もあるが事実であった事には間違いない。大きな岩石が点在しているため漁業には危険な点も多いが魚達にとっては安心して過ごせる場所にもなっている。（文・榎本泰弘）



ニゴイ（コイ科）

「かまつか」と共に琵琶湖からの放流魚に混ざって来た魚。体長は最大で60センチにもなる。

お礼

戸川地区、岩谷義秋さんより和田公民館にご寄付を頂きました。これからの公民館活動に有意義に活用させていただきたいと思います。誠に有難うございました。

和田公民館館長





~つぬちゃんのこんなのやりましたコーナー~



6月17日、今市公民館との合同事業で「バスで行く、萩、日帰り見学の旅」と題して研修に行ってきた。梅雨に入りお天気を心配していましたが、あまり暑すぎもしないお出掛け日和となりました。

今回は、世界遺産に登録勧告を受けた「萩反射炉」「松下村塾」などをガイドさんの説明を聞きながら見学をしました。そして、NHK大河ドラマ館では日本近代化の原動力となった人々や支えてくれた家族、友人について楽しく学ぶことができました。

反射炉 残っているのは煙突の部分。
高さは、11.5mといわれています。



恵比寿ヶ鼻造船所跡
洋式木造帆船が作られていました。



ガイドの野間さん。一生懸命説明をしてくださいました。



楽しい昼食タイム。
おいしい食事に笑顔も弾みます。

松陰神社歴史館では近代化の原動力となった吉田松陰について詳しく説明を聞きました。



あ と が き

5月31日(日)和田地区民まつりが盛大に行なわれました。今年は、昨年の内容のほかに本郷田ばやし保存会による田ばやしにぎやかに披露されました。何年か前まではあちこちで行なわれていた様ですが、近年では珍しくなりました。出演者約50人と本郷自治会総動員といった感でした。「地域みんなで伝統文化を守る」大変な事と思いますが、とても感動的でした。(美)